

## 日本と台湾の共通道徳授業の学習案

上 藺恒太郎（長崎大学）  
眞榮城善之介（琉球大学教育学部附属小学校）  
岡崎耕（長崎大学大学院）

以下に2014年1月2日および3日に台湾でおこなった、「へふり嫁」を授業素材とする眞榮城善之介と岡崎耕の学習案2つを掲載する<sup>1)</sup>。なお岡崎案のⅢ本時についての展開案は事後修正した分である。

## 国際道徳学習指導案（日本語版）

琉球大学教育学部附属小学校

教諭 M A E SHIRO Z E N N O S U K E  
眞榮城 善之介

## 1. 主題名「相手と心を通わせて」【2－（2）思いやり】

（資料名：「へふり嫁」）

## 2. 指導観

- (1) ねらいとする価値について （略）  
(2) 資料について （略）

## 3. 本時

## (1) 授業のねらい

人々の間で古くから伝えられてきた民話の良さを活かし、仲間と話し合いながら多様な考えにふれ、相手の心情や身の上を察したり、特異性を持つ相手のことを受け入れたりする思いやりの心を育む。さらに自分への思いやりの心も育みながら、自己肯定感を高めていく。

## (2) 準備するもの

- ・ 紙芝居      ・ 連想マップ(各班分)      ・ ふりかえりシート(全員分)

## (3) 展開

	主な学習活動と発問	予想される子どもの反応と留意点	ねらい
導入	1. 自己を見つめる。	①教卓の前に集まってもらう。 (グループごとに固まって、全体で半円を描くように座る)	①緊張緩和のために、 仲間との距離を縮め 安心感を持たせる。
	2. 第一話を聞き、 嫁の心境について話し合う。 ⑤どうして嫁さんは、 十日も屁を我慢していたのか。	1. 自分には、他の人とは違う特異なことや部分があるか 尋ね、しばらく考えてもらう。 ②挙手や発表は求めない(自分から発表したいなら認める) ③子どもが困惑しているようなら、教師の方で一例を出す。 ④これから紹介する話は日本の民話であることと、屁の話であることを伝える。 2. 第一話を語り聞かせ、嫁の心境について全体で考える。 ・ やっぱ恥ずかしいから。(なぜ恥ずかしいの?) ・ 嫌われたくなかったから。(どうして嫌われるの?) ・ 婿が怪我すると困るから。(何が困るの?) ⑤なぜそう思うのか理由も聞く。また、結局我慢できずに 屁をしてしまって、婿を飛ばしてしまった気持ちも考える。 ・ ああまたやってしまった…。 ・ 旦那さんごめんなさい。 ・ 私の屁は最低だ…。	○授業の方向付け ②否定的な意見に配慮 ③具体例を出すことで 想起しやすくする。 ④授業への興味と期待 をもってもらう。  ○ねらいへの方向付け  ⑤そう思うわけを丁寧に 聞いた後、屁をして しまった嫁の気持ち を想像したりする ことで、屁に対する 劣等感や、自分の屁 を悲観している嫁の 立場をおさえる。

展開	<p>3, 第二話を聞き、嫁さんは別れてよかったのかについて話し合う。</p> <p>⑤嫁さんは別れてよかったと思うだろうか。</p> <p>⑥嫁さんは、婿さんにどうしてほしかったと思いますか。</p> <p>4, 第三話を聞き、嫁はこれで本当によかったのか話し合う。</p> <p>⑦嫁さんはこれでよかったのか。</p> <p>5, 手作り連想マップを作成し、自分をふりかえる。</p>	<p>3, 第二話を語り聞かせ、嫁さんは本当に別れてよかったと思っていたのか考え、理由を共有し合う。</p> <p>⑥別れてよかったは赤帽子, よくないは白帽子をかぶる。</p> <p>⑦その後、グループごとの小集団で話し合う。</p> <p>全体で共有する</p> <p>○別れてよかった</p> <p>⑧これでもう恥ずかしい思いしなくていい。</p> <p>⑨これでもう婿さんに迷惑をかけなくていい。</p> <p>⑩これでもう気兼ねなくいつでも屁ができる。</p> <p>⑪これくらいで別れると言うなら、こっちの方から別れてやる。</p> <p>○よくない (別れなくなかった)</p> <p>⑫屁は仕方がないことだから許して欲しかった。</p> <p>⑬初めに屁のことは言っていたのだから、別れると言うのは勝手だと思う。</p> <p>⑭嫁の心境(本音の部分)を深く考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・屁をしても許して(認めて)ほしかった。</li> <li>・別れないでほしかった。</li> <li>・自分の気持ちもわかってほしかった。</li> </ul> <p>⑮その人の身になってもっと考える。</p> <p>4, 第三話を語り聞かせ、嫁さんは本当にこれでよかったと思っているのか考え、理由を共有し合う。</p> <p>⑩よかったは赤帽子, よくないは白帽子をかぶる。</p> <p>⑪その後、グループごとの小集団で話し合う。</p> <p>全体で共有する</p> <p>○よかった</p> <p>⑫婿さんは嫁さんの屁を受け入れてくれた。(A・B)</p> <p>⑬婿さんも喜んでくれたからうれしい。(A・B)</p> <p>⑭自分の屁も役に立つとわかったから。(A・B)</p> <p>○よくない</p> <p>⑮婿さんは嫁さんの屁を認めたのではなくて、利用しているだけではないか。(A)</p> <p>⑯嫁の屁の解決にはなっていない。(どちらでもない)</p> <p>⑰「よかった」の考えに対し「婿は嫁の屁を利用しているのではないか?」、また「よくない」の考えに対し「それならやっぱり別れた方が嫁のためだったか」とゆさぶる。</p> <p>⑱これらの理由は、どちらの幸せにつながっているのか確認する。(A)or(B), あるいは(A・B)</p> <p>5, 各グループ席に戻って連想マップを作成する。</p> <p>⑲相手のことを考え、相手のために何かをしたり、受け入れたりすることを、一言で言うとどんな言葉が適当か問いかける。仮に「思いやり」と出たら、その言葉を中心の円に書いて、中間の円には「思いやりから大事にしたい言葉」、外側の円には「どんな自分になりたいか」をグループで書き込ませる。できれば、いくつかの連想マップを紹介し、価値の自覚を全体で共有する。</p>	<p>○ねらいの追求</p> <p>⑥自分の意見を明確にすると同時に他者の意見を把握しやすくする。</p> <p>⑦話す機会を増やし、多様な考えにふれる。</p> <p>⑧例え自分の屁が原因だったとしても、別れることに本当に納得できるのか、嫁の立場になってより深く考える。</p> <p>⑨価値への気付き</p> <p>○ねらいの追求</p> <p>⑩自分の意見を明確にすると同時に他者の意見を把握しやすくする。</p> <p>⑪話す機会を増やし、多様な考えにふれる。</p> <p>⑫自分を認めてもらえない辛さや、損得感情だけで判断される辛さ、そしてそれでも認めてもらえたことの喜びなど、多様な考えにふれる。</p> <p>⑬役に立つとか立たないとかではなく、特異性のある相手を認め受け入れることの必要性に気付かせる。</p> <p>○価値の自覚と把握</p> <p>⑭子どもの気付きによって出た言葉を使うことで、全体で価値を共有し、価値の自覚をはかる。また、思いやりに関する多様な意見を視覚的にとらえられるようにする。</p>
----	--	---	---

終末	6, 第四話を聞き、民話のおもしろさを楽しむ。	6, 第四話を語り聞かせ、問題解決のおもしろさに気付かせる。	○民話を楽しむ
	7, 自己を振り返る。	7, 「これからどんな自分になりたいか」振り返りを書く。 ⑮授業を通して高めた価値から自分を見つめ、将来こうありたいという期待を持たせる。できれば、数名に振り返りを発表してもらい全体で共有する。	○価値の自覚と把握 ⑮自己肯定感を高める

中埔小学校第 5 学年甲組 27 名

## 道徳学習案

2014 年 1 月 2 日

13:30～14:10

授業者：岡崎耕

通訳者：蕭和典

### I 主題名 「へふり嫁」(思いやり)

### II 学習組織

#### 1 主題の目標

- ①授業目標：授業者が民話を使って授業を行い、子どもにとって楽しく深い道徳授業を行う。
- ②授業のねらい：思いやりは、①相手の立場にたって考え、②相手を全体として受け入れることだと子どもに理解してもらう。
- ③授業目的：相手を思いやることのできる自分自身に気付かせ、子どもの自己肯定感を高める。

#### 2 思いやり，ケアリング，自己肯定感 (略)

#### 3 子どもの実態

2013 年 12 月に行った連想調査の結果から、中埔小学校第 5 学年甲組の子どもの実態を考察する。提示語を「自己（自分）」、「同情心（思いやり）」、「新娘（お嫁さん）」の 3 語とした。提示語はそれぞれ、授業の目的、授業のねらい、授業素材に対応する。  
(以下略)

#### 4 教材観 (略)

#### 5 授業者の関わり

本授業では、子どもが民話を楽しみながら、「お嫁さん」について対話をして、思いやりとはなにか、どんな自分になりたいかを深く考えることを目指す。そのために授業者は子どもと以下の関わりを持つ。

- 「導入」では、まず、授業者は子どもにお嫁さんの挿絵とむこさんの挿絵をじっくりと見せて、授業で何をするかのイメージを膨らませる。授業者はお嫁さんとむこさんの挿絵を黒板に貼った後、「今日はおならの話をします」と言う。授業者の短い一言によって、授業の見通しを子どもに持ってもらうためである。

担任教師が子どもに第一話を語り聞かせる。通訳者が物語に合わせて、内容の筋を表す文カードを黒板に貼る。授業者並びに通訳者は、子どもと一緒に第一話を楽しみ、子どもの態度を道徳授業用に構えさせず、気軽に自分の立場を表明できるようにする。

第一話を担任教師が語り終えた後、子どもはお嫁さんと一緒にいるか、別れるかを、各自のネームプレート黒板に貼って、自らの立場を示す。授業者は、別れる立場の子どもの人数と、一緒にいる立場の子どもの人数を把握する。授業者は、子どもの考えを全体としておさえる。また、授業者はネームプレートを貼っていない子どもがいないか確認する。ネームプレートを貼っていない子どもに気付かずに授業を進めることは、その子を授業から外すことになるからである。ネ

ームプレートを貼っていない子どもがいた場合、声をかけて、理由を聞く。迷っている、気分が乗らない等の理由で、子どもがネームプレートを貼らない場合、授業者は子どもに立場の決定をすぐに迫らず、後にもネームプレートを貼る機会があることを子どもに伝える。

- 「価値の追求・把握」における関わりは、根拠の練りあい、役割演技、視点の転換、の三つに分けられる。

1. 根拠の練りあいの過程では、担任教師が、第二話と第三話を語り聞かせた後、お嫁さんと一緒にいる理由と、別れる理由を子どもに発表してもらう。通訳者が、子どもの意見を板書する。授業者は、子どもに、意見の多様性に注目させる。授業者は、子どもの多様な意見を受け止め、クラス全体に広げる。
2. 役割演技の過程では、子どもは2人1組になって役割演技をする。授業者が予め用意したセリフを使って、子ども全員が役割演技をする場を設定する。子どもが演じるのは、お嫁さんとむこさんである。授業者は、用意したセリフを電子黒板に映す。子どもは電子黒板に映されたセリフを見ながら演じる。子どもが演じる場面は、お嫁さんとむこさんが「いやだから別れる関係」と「役に立つから一緒にいる関係」である。  
子ども全員が、役割演技をやり終えた後、代表2名の子どもに、皆の前で役割演技をしてもらう。代表で役割演技をしてもらう子どもはそれぞれ、お嫁さんとむこさんのお面をかぶって演技をする。授業者は、事前に代表2名の子どもに、皆の前で役割演技をしてもらう旨を伝え、指名して、お面を見せておく。  
役割演技が終わると、授業者は、お嫁さん役の子どもに「どんな気持ちですか」と聞く。お嫁さん役の子どものお気持ちを通訳者が板書する。授業者は、子ども全員に向かって、「なぜお嫁さんはそんな気持ちなのかですか」と問いかける。授業者は、子ども全員が役割演技を落ち着いてできる雰囲気と、お嫁さんの気持ちに共感し、お嫁さんの気持ちの原因を静かに考える場をつくる。
3. 視点の転換の過程では、授業者が『お嫁さん、あなたと一緒にいるのはいやだから、わかれましょう、さよなら』でお嫁さんはいいいのですかと子どもに問いかけ、視点の転換をさせる。授業者は、お嫁さんの立場から考えること、お嫁さんの気持ちを大切にすることを確認する。また、授業者は「むこさんが、役に立つからお嫁さんと一緒にいるのは、本当にお嫁さんの気持ちを大切にしていますか」、「お嫁さんの気持ちを大切にすると、どういことですか」と問う。お嫁さんを役に立つ道具としてではなく、人として接すること、また、お嫁さんをおならだけで判断するのではなく、人格全体を見つめることの重要性に気付かせる。

- 第四話を語り聞かせる過程では、授業者は民話の持つ知恵を子どもに伝える。授業者は、おなら問題を部屋をつくる知恵によって解決する、民話のおもしろさを子どもに気付かせる。

- 「価値の自覚化・振り返り」では、グループで「手作り連想マップ」を作成する場を設定する。子ども、授業者、通訳者、授業参観者が子どもの意見を視覚的に捉えられるようにする。「手作り連想マップ」の中心には「思いやり」を、内側の円には「思いやりとはなにか」を、外側の円には「どんな自分になりたいか」、「どんな自分がすてきか」を子どもに書いてもらう。  
手作り連想マップを作成した後、各自で、なりたい自分の姿を考えて、振り返りシートに書いてもらう。子どもが自分を振り返る際には、授業者は子どもを認めて、子どもが相手を思いやることのできる自分自身に気付くようにする。

- 授業全体で、子ども同士の協同の学びを作り上げる。協同の学びの具体的な手立ては、2人1組による役割演技、5人1組による手作り連想マップの作成、である。協同の学びの構造は、2人、5人、クラス全体と展開する。グループの人数は、学級の人数によって変更しうる。授業者は子どもの意見をクラス全体に広げてまとめる。

### III 本時について

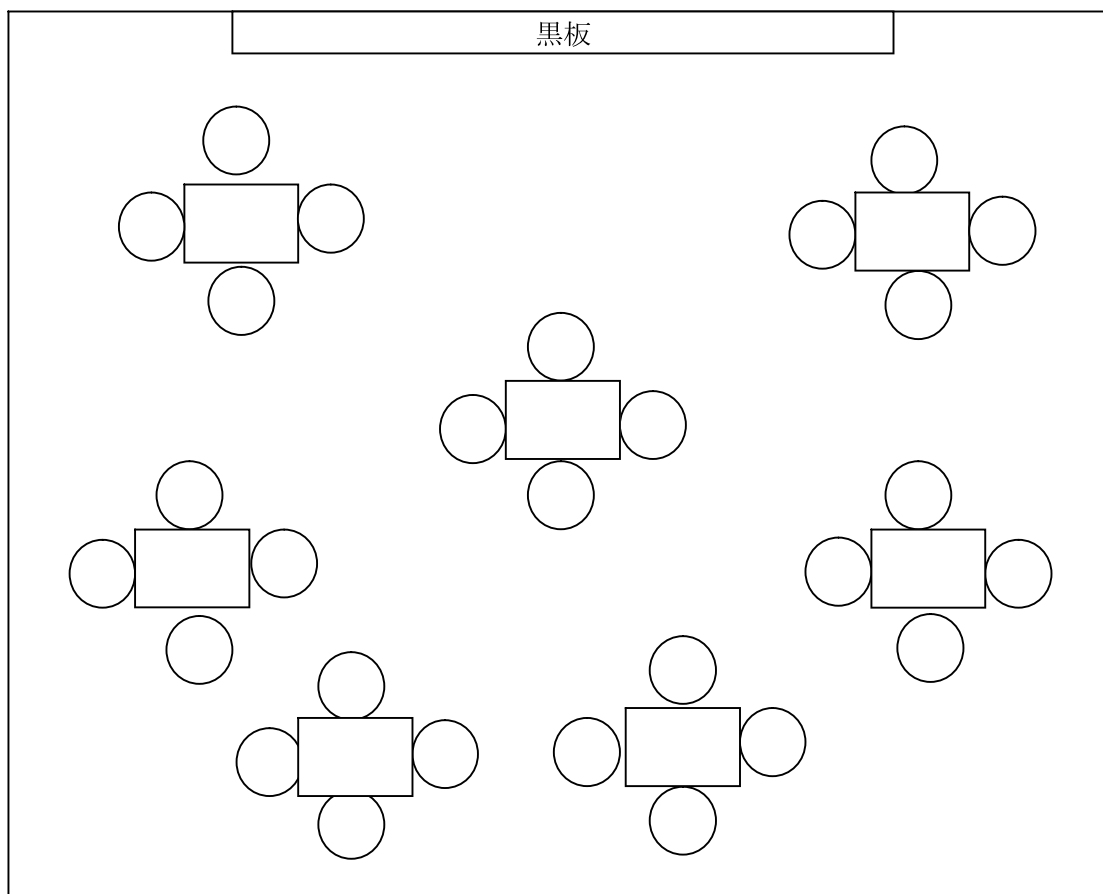
子どもが民話を楽しみながら、「お嫁さん」について対話し、思いやりが、①相手の立場にたって考え、②相手を全体として受け入れることだと理解する。

[illegible]

		<div> <div>一緒にいない</div> <div>一緒にいる</div> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いやだ</li> <li>・迷惑になる</li> <li>・はずかしい</li> <li>・あぶない</li> <li>・役に立つ</li> <li>・面白そう</li> <li>・健康の証</li> <li>・かわいそう</li> </ul> <p>○授業者は、挙げられた理由がむこさんとお嫁さんの、どちらの立場から考えられたものかを確認して、理由を整理する。</p> <p>○授業者は⑤「では、皆さんに、お嫁さんとむこさんの会話を、実際にやってもらいましょう」と言い、2人1組でペアを組ませ、全員が役割演技をする時間を設定する。</p> <p>「いやだから一緒におらん関係」と「役に立つから一緒における関係」の役割演技を子どもにしてもらおう。子ども全員が役割演技をやり終えた後、授業者が、1場面につき2組代表を選び皆の前で役割演技をしてもらおう。授業者が役割演技を途中で止めて、お嫁さん役の子どもに⑥「どんな気持ちですか」と尋ねて、子どもがお嫁さんの気持ちに共感できるようにする。「かなしい」、「いやな気持ち」、「残念」等の意見が出されると予想する。その際「どれくらいかなしいか」と、程度も併せて訊く。</p> <p>【視点の転換】</p> <p>○授業者が⑦「『お嫁さん、あなたとは一緒おられん』で、お嫁さんはいいですか」と問う。</p> <p>授業者は、お嫁さんの立場から考えること、お嫁さんの気持ちを大切にすることを、子どもと確認する。</p> <p>○授業者は⑧「むこさんが、役に立つからお嫁さんと一緒にいるのは、本当にお嫁さんの気持ちを大切にしていますか」と問う。</p>	
	<p>(2)理由を整理する</p> <p>(3) 役割演技をして、お嫁さんの気持ちに共感する。</p> <p>(4) 視点の転換をして、お嫁さんの気持ちを大切にすることを確認する。</p>	<p>学習材 2</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・セリフカード</li> <li>・お面</li> </ul>	
Ⅲ 自分をふり返り、自己肯定へと至る道筋をつくる			10
価値の自覚化	<p>3 自分を振り返る。</p> <p>(1) 手作り連想マップを作成する。</p>	<p>学習材 3</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・手作り連想マップ</li> </ul> <p>○授業者は⑨「授業で学んだことを参考にして『思いやりとはなにか』をグループで考えて下さい」と言い、「手作り連想マップ」をグループで作成する場を設定する。</p>	

<p>／ 民話を楽しむ</p>	<p>(2) 第四話を聞く</p>	<p>マップの中心には「思いやり」を、中間の円には『『思いやり』とはなにか』を、外側の円には「どんな自分になりたいか」、「どんな自分がすてきか」をグループで子どもに書いてもらう。子ども、授業者、授業参観者が子どもから出てくる多様な意見を視覚的にとらえられるようにする。</p> <p>○授業者は、⑩「<u>お嫁さんとむこさんがどうなったかを、話します。</u>」と言い、第四話を語り聞かせる。授業者は、部屋をつくって、おなら問題を解決する知恵を子どもに楽しんでもらう。</p>	
<p>IV 未来からのふり返し (未来に向かう自己を確認する)</p>			
<p>／ 振り返り</p>	<p>(3) 各自で振り返りシートに、「なりたい自分の姿」を書く。</p>	<div data-bbox="523 846 703 1059" style="border: 1px dashed black; padding: 5px; display: inline-block;"> <p>学習材 4</p> <p>・ 振り返りシート</p> </div> <p>○授業者は⑪「<u>皆さんはどんな自分になりたいですか</u>」と子どもに問い、未来のなりたい姿を振り返りシートに書いてもらう。</p> <p>○授業者は、子どもが書いた手作り連想マップや振り返りシートから、「自分を大切にする」、「自分自身を思いやる」、「自分を認める」を取り出して、クラス全体に広げる。</p> <div data-bbox="293 1207 1171 1664" style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p><b>【評価】</b></p> <p>①子どもにとって楽しく深い道徳授業であったかを、子どもの主観評価、発言、によって評価する。</p> <p>②思いやりは、①相手の立場にたって考え、②相手を全体として受け入れることだと、子どもが理解したかを、手作り連想マップ、振り返りシート、授業後連想調査、発言によって評価する。</p> <p>③相手を思いやることのできる自分自身に気づき、子どもの自己肯定感が高まったかを、授業後連想調査によって評価する。</p> <p>手作り連想マップ、振り返りシートは授業中に実施する。 子どもの主観評価、授業後連想調査は授業後に実施する。</p> </div>	

### 3 授業の場の設定



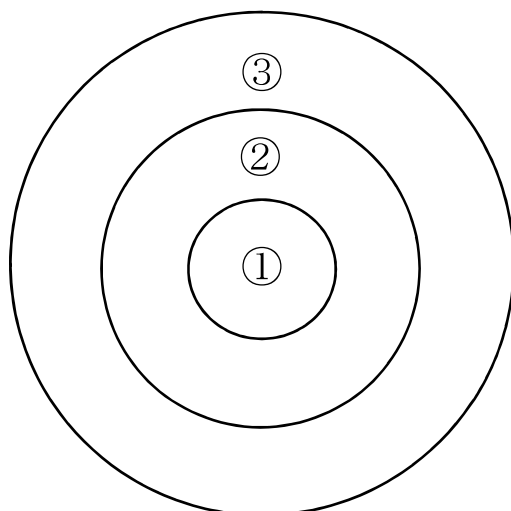
(図 1) 教室配置図 ○は子ども、□は机を表す  
(机 1 つを 4 人で囲む)

図 1 は授業中における教室内の配置を示している。

授業開始前に、あらかじめ机をグループ活動の配置にしておく。

子どもは、グループの配置で学習する。「価値の自覚化・振り返り」の過程で、子どもは、グループによる協同学習で手作り連想マップを作成する。子どもは、一つの机を囲むように集まり、頭をつき合わせるようにして活動する。

### 4 手作り連想マップ



(図 2) 手作り連想マップ



図2は手作り連想マップを示している。

手作り連想マップは三層の円を持つ。中心、図では①に、提示語を書く。内側の円、図では②、と外側の円、図では③、には提示語から思いつく言葉をグループで話し合いながら書く。子どもに、中心、内側の円、外側の円に何を書いてもらうかは、授業構成による。

本時では、①の円には「思いやり」、②の円には「思いやりとはなにか」、③の円には「どんな自分になりたいか」「どんな自分がすてきか」を書いてもらう。

「思いやり」は授業で扱う内容項目に、「思いやりとはなにか」は授業のねらいに、「どんな自分になりたいか」「どんな自分がすてきか」は授業の目的に対応する。

## 資料「へふりよめ」

### （第一話）

むかし。

仲人さんが嫁さんの相談にいった。

ところがこの嫁さん、

「わたしや、どうしてもいけません。」と断わる。

「どうしてかな。」と仲人さんはたずねる。

「わたしや、一日十回、へをふりますもん。」

「そいでもよか」と、仲人さんは嫁にもろうていった。

嫁さんはがまんしていた。十日もがまんした。

それで嫁さんの腹は、大きくふくれてしまった。

むこさんは言った。

「どがあんしょうもなか、こがらん腹のふくれて。」

「そいなら、へをふってよか。」

むこさんは、嫁さんの忠告にしたがって、柱にだきついた。

嫁さんが、どっとへをふった。

むこさんはとなりの屋根のうえまで飛ばされて、

「助けてくれ。」と叫んでおったと。

そいばっきゃあ。

### （第二話）

むかし。

嫁さんがきた。嫁さんは、大きなへをふった。

それでカキの実がぼとぼと落ちた。

それでむこさんはとなりの屋根のうえまで飛ばされた。

むこさんはびっくりして言った。

「せっかく、きてもろうたばってん…。」

それで別れてしもうたと。

そいばっきゃあ。

(第三話)

むかし。

嫁さんがおった。ある日、嫁さんは大きなへをふった。

むこさんはおどろいた。

次の日、カキちぎりじゃった。嫁さんは言った。

「これくらいなカキは、わたしゃへでちぎります。」

嫁さんが大きなへをふると、かきの実がぼとぼと落ちた。

また次の日、むこさんが、にぐるまに米俵をつんで、

へっこらへっこら坂を登っておった。

「助けましょ。」と嫁さんは大きなへをふった。

車はつるつる登って行った。

「ほんに、よか嫁じゃ。」とむこさんは喜んだと。

そいばっきゃあ。

(第四話)

むかし。

いい嫁さんがおったが、への大きいのは、あきられてしもうた。

たなの上の物は、ばたばた倒れるし、かべもどろも、ぼろぼろになった。

むこさんは言った。

「よか嫁じゃが、こがんへの太うしては、どうもならん。」

嫁さんは、ふろしき包み一つもって、とぼとぼ実家へもどっていった。

とちゅうで村の者が綿をつんでおった。

「へばふって、落としましょ。」

嫁さんが大きくふると、綿はふわふわふきよせられた。

村の者は喜んで、嫁さんに綿をたくさんくれた。

またとちゅうで馬車引きが、米俵をたくさん積んでくろうしておった。

「助けましょ。」

嫁さんがへをふると、馬車はとことこ進んで行った。

馬車引きは喜んで、嫁さんに米一俵くれた。

さて嫁さんは、世話になったと、むこさんに綿と米をとどけた。

むこさんは言った。

「ほんにおまえはよか嫁じゃった。へぐりゃふってよかけん、またおつてくいござい。そんなかわり、場所ば決むつ。部屋ばつくつけん、そこでしてくいろ。」

へをふる部屋もできて、二人またなかよくくらしたと。

そいばっきゃあ。

(上藺, 1992 年, 民話による道德授業論, pp.91-93,)

註

- 1) 眞榮城善之介教諭の学習案をもとに、台湾の教諭 2 人、中埔国民小学校で張杏月老師および軍功国民小学校で張雅惠老師が同じ道德授業をおこなった。眞榮城教諭は中埔国民小学校 5 年乙組と軍功国民小学校 6 年 1 組で、國立中正大學犯罪防治學系副教授である戴伸峰 (Tai, Shen-feng) を通訳として授業をおこない、岡崎耕大学院生は國立中正大學課程研究所研究生である蕭和典を通訳として、同じ資料で展開を少し異にして、中埔国民小学校 5 年甲組と軍功国民小学校 6 年 6 組で授業をおこなった。学習案と呼ぶか、学習指導案と呼ぶかは、長崎大学附属小学校の流儀、琉球大学附属小学校の流儀による。統一はしなかった。紙数の関係で、展開以外は省略した部分が多い。